

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元
佐野市教育センター
佐野市上羽田町 1134 番地 1
電話 20-3108
20-3048(相談専用)

5 月下旬に教育センターで実施させていただいた「1 人 1 台端末に関する調査（負担感、健康面について）」では、お忙しいところ御協力いただき、ありがとうございました。GIGA スクール構想が本格的にスタートして約 2 年。各学校で 1 人 1 台端末の活用が進み、先生方が端末の使い方に慣れ、児童生徒の健康面にもしっかりと配慮してくださっていることも分かりました。一方で、端末の管理や破損への対応、情報モラルの指導などに新たな負担感を感じていらっしゃる様子が、調査結果から伝わってきました。感想欄にいただいた多くの感想や御意見は今後の取組に生かしてまいりたいと思います。

さて、今回の GIGA 通信では、植野小学校での 1 人 1 台端末を活用した取組を紹介いたします。

『1 人 1 台端末の活用を全校体制で推進』

(植野小)

植野小学校では、校長先生の学校経営方針の下、情報教育担当の先生方を中心に、授業、特別活動、家庭学習、学校評価など様々な場面において、学校全体で 1 人 1 台端末の活用を進めています。それらの取組について、学習指導主任の先生にお話を伺いました。



◇外国語科・外国語活動での活用事例

英語の学習指導研究を推めている植野小では、外国語活動や外国語科においても積極的に 1 人 1 台端末を活用しています。

高学年では、全児童の端末で学習者用デジタル教科書が利用できます。これを授業中に使うだけでなく、家庭で単語や会話練習、その日の授業の復習をしたいときに児童が使えるようにするなど、個別最適化の視点に立ってデジタル教科書を活用しています。また、授業中に英語で会話練習をする際、話している様子を互いに録画し合い、動画を見合うことで相互改善が図れるようにしています。自分や友達の話している様子を客観的に見直すことで、発音の仕方や話す早さ、声の大きさ、表情などの改善点に気づき、児童の意欲や表現力が向上しているそうです。

中学年では、学習者用デジタル教科書がありません。そこで、ALT に単語や会話を英語で録音してもらい、それをロイロノートで児童に配付することで、授業や家庭で練習ができるようにしました。これにより、家庭での自主学習として英語の「話す活動」を行う児童が増えてきたそうです。



◇端末を毎日家庭に持ち帰り、家庭学習や欠席時のオンライン授業に活用

前段の活用事例でも少し触れましたが、植野小では端末の家庭への持ち帰りを毎日行っています。毎日の持ち帰りは、コロナ禍での児童の学びを保障するために開始されました。既に日々の授業で端末が積極的に活用され、児童は端末の操作や使い方のルールに慣れていたため大きな混乱はなかったそうです。しかし、実際に持ち帰りを始めると、児童や保

護者から「端末が重い」という声が多く上がるようになりました。そこで、保護者に改めて、学校教育活動外での 1 人 1 台端末の活用について通知を出し、「端末を持ち帰る目的（家庭学習での利用）」をお知らせしたところ、御理解いただける家庭が増え、以後こうした声は少なくなったそうです。

以下は、通知で保護者にお知らせした内容です。

【家庭学習での利用について】

(1) eライブラリ

学年や教科の枠を超えて、理解度に沿ったドリル学習に取り組んだり、先生からの課題に取り組んだりすることができます。(URL と学校ホームページのバナー（リンク）を記載)

(2) 調べ学習

授業で学んだことを振り返ったり、次の日の学習に備えて調べてノートにまとめたりすることで学びが深まります。また、総合的な学習の時間における調べ学習にもご活用ください。

(3) QRコードの利用

教科書には、多くのQRコードのコンテンツが掲載されています。動画を見たり音声を聞いたりすることで学習の理解度を深めることができます。(例：家庭科での包丁の使い方の動画、外国語科での発音練習を紹介)

(4) 課題等の提出

端末上で提出する宿題が出されることがあります。(例：リコーダーの演奏、外国語科のスピーキング、家庭科の調理の様子動画の提出)

現在、端末を活用した家庭学習では、eライブラリが積極的に活用されています。テスト勉強や前の学年の学習の復習として、先生がeライブラリの「学習指示」機能を活用して学習する教科と内容を指示する場合がありますが、児童が自分で学習内容を選択し、自主的に取り組むことも多いそうです。また、先生が家庭学習として教科の課題をロイロノートで配付し、児童が自宅で取り組んで「提出箱」で提出することもあるそうです。端末を活用した家庭学習を必ずしも毎日出しているわけではありませんが、自主学習として端末を使って学習を進める児童も増えてきているとのことでした。

不登校や感染症等の影響により学校に来たくても来られない児童に対しては、希望があればオンラインでの授業配信をしているそうです。毎日の持ち帰りをしているため、感染症等の影響により急に学級閉鎖等になった際も、比較的スムーズに対応しやすかったとのことでした。

◇情報教育担当の先生方を中心とした校内支援体制

植野小には情報教育主担当のほかに、学年に 1 名ずつ情報教育担当の先生が配置されています。ICTに関わる情報や 1 人 1 台端末の授業での活用法などを全校で共有したい場合は、「情報教育主担当→各学年の情報教育担当→各学年の先生」という流れで情報の共有を行っています。各学年に情報教育担当の先生がいらっしゃることで、分からないことや困っていることがあったとき気軽に相談しやすい雰囲気があるそうです。

一方で、1 人 1 台端末の積極的な活用が進むことで、当然のことではありますが、不具合や破損が生じることも多くなりました。そこで植野小では、端末を使うときの注意点を児童に指導するとともに、破損や紛失があった場合の対応について、通知で保護者にお知らせしています。また、学校独自の対応マニュアルを作成し、端末の電源が入らない場合や端末が破損した場合などの対応について、先生方に分かりやすく周知しています。端末の破損があった場合は、教頭先生を窓口として速やかに教育センターに連絡いただくなど、適切に対応していただいています。

